

シンガポールの教育 2005

(財) 自治体国際化協会 CLAIR REPORT NUMBER 262 (Jun 10, 2005)

財団法人自治体国際化協会
(シンガポール事務所)

目 次

はじめに

概 要	i
第1章 教育制度の概要	1
第1節 教育水準	1
第2節 一般的な進路	2
第3節 徹底した能力主義	2
第2章 教育行政	4
第1節 教育省	4
第2節 教育予算	6
第3節 学校	7
第4節 教員	10
第3章 学校制度	12
第1節 初等教育	12
第2節 中等教育	13
第3節 大学準備教育	14
第4節 専門教育	15
第5節 大学教育	16
第6節 技能教育	16
第7節 障害児教育	17
第8節 その他の教育機関	17
第4章 学校生活	18
第1節 学期と学校休日	18
第2節 課外活動	18
第3節 授業料	19
第4節 学校施設	19
第5章 教育制度の特色	23
第1節 選抜システム	23
第2節 選択肢	30
第3節 言語	30
第4節 IT 教育	31

第6章 各学校の特色	32
第1節 初等教育	32
第2節 中等教育	35
第3節 大学準備教育	39
第4節 専門教育	41
第5節 その他の教育機関	43
おわりに	45
参考資料	46

はじめに

シンガポールにとって「人材」は最大で唯一の「資源」であるため、政府は、国の将来を担う有能な人材を積極的に発掘・育成する学校教育に大きな力を注いでいる。それは、教育費が歳出の20%強を占め、国防費に次ぐ規模となっていることにも現れている。

また、2004年12月に発表された「国際数学・理科教育動向調査2003」で、シンガポールの生徒の平均学力が世界トップと位置づけられたことからみて、学力伸長という点において、教育政策が奏功していると言えよう。

英語の公用語化や徹底したエリート選別は、シンガポールの驚異的發展のひとつの原動力ではあるが、一方、子供たちに大きなプレッシャーを与えていることも事実であり、課題も少なからず認識されてきている。

数年前、シンガポールの初等学校を舞台とした映画「I Not Stupid (僕、バカじゃない)」が大ヒットした。これは、成績別クラス分けの最下位クラスにいる3人の子どもとその親たちをめぐる物語である。初等学校卒業時の試験結果で将来が決まるといわれる徹底的な能力主義とエリート偏重教育の中で、周囲の蔑視や圧力に抗して成長していく主人公の姿を、涙あり、笑いありのコメディタッチで描くとともに、「政府と国民」の関係を「賢明な親と従順な子」になぞらえて描いている。多くのシンガポリアンが、主人公と、その目から見た社会の姿に共感を覚え、大ヒットにつながったのであろう。

2004年8月のリー・シェンロン新首相の首相就任式での演説は、教育重視の姿勢を示すものであった。活発で競争力のある経済の重要性を説き、豊かになれば若者の教育へのさらなる投資が可能になるとした。また、30代、40代の若手から次期指導者を探すことを優先課題の1つであるとし、「若者には、自分で考え、自信を持って自らの情熱を探求してもらいたい。」と語っている。

さらに「教育は若者への大切な贈り物だ。」として、教員数の増員のほか、教室以外での授業を増やし、子どもたちが自主的に物事に取り組めるようカリキュラムを組み立てるなど、積極的に教育制度を改革していく方針を示した。

シンガポールでは、日本以上の急速な少子化が進んでいる。今後政府は、少子化対策も視野に入れながらの「人的資源」の活用方策に知恵を絞っていくことだろう。

本レポートでは、現在のシンガポールの教育システムとその特色を紹介している。これらの事例が、教育改革を目指す日本の地方自治体の参考となれば幸いである。

財団法人自治体国際化協会 シンガポール事務所長

概 要

現在、シンガポールは世界で最も教育水準の高い国の一つとされている。2004年12月、国際的な調査機関である国際教育到達度評価学会（IEA）は、シンガポールの子どもの数学と理科の学力は世界一であるという調査結果を発表した。

シンガポールは、人口約416万人、国土面積685.4k m²（東京都23区の面積とほぼ同じ）という小国ながら、建国以来、経済的に順調な発展をとげ、東南アジア地域では他に比肩しない豊かさを手に入れている。

シンガポールの発展は、徹底的な能力主義に基づき、有能な人材を育成するその教育システムに負うところが大きいと言われるが、政府は常に教育政策を重視し、国の重要な課題と位置づけている。

本レポートでは、現在のシンガポールの教育システムとその特色を記述するとともに、フィールドワークによって得た各教育段階の学校に関する情報を各校の特色及び取組み等を交えて紹介する。

第1章では、シンガポールの教育制度について、教育水準の高さを示す調査の結果と教育体系における一般的な進路、また、その特徴である徹底した能力主義について紹介する。

第2章では、教育省の組織や教育予算など、教育行政を概観する。

第3章では、初等教育、中等教育、大学準備教育、専門教育、大学教育等、各教育段階の詳細を述べる。

第4章では、学期と学校休日、課外活動など、子どもたちの学校生活について紹介する。

第5章では、教育制度の特色について述べる。特に、初等学校から各段階で試験があり、その成績で進路が決められていく選抜システムについて詳述する。

第6章では、フィールドワークによって得た各教育段階の学校の特色を紹介する。